

## 【潜在看護職員再就業支援研修モデル事業】

1. 目的：潜在看護職員が再び看護職として医療・看護の現場で働きたいという思いを起こすような動機づけ、再就業に向けて踏み出す勇気や自信、行動につながるような情報提供、及び看護実践力の再確認・研鑽の機会を提供する。
2. 対象：保健師、助産師、看護師および准看護師の有資格者で、再就業を希望している現在離職中の者
3. 期間：5日間程度（1日当たり3～4時間）
4. 実施主体：都道府県医師会（15県）
5. 助成金：1県50万円
6. 研修内容（別表）
7. 実施上の留意点
  - ① 最大の課題は、潜在看護職員の把握と情報の周知であることから、地域の関係諸機関等との連携のもと、行政の広報紙の活用など有効な情報提供ツールの検討・活用を図ること。
  - ② 開催日程は連続、分散いずれでも可とするが、研修期間短縮、技術演習および実習の順序の変更は行わないこと。
  - ③ 実習については、受け入れ施設の状況、受講者のニーズ等に応じて実習施設を選定し、見学のみ又は指導者立会の下での一部ケアの実践など、関係者で十分検討のうえ計画すること。

## ＜研修内容＞

回数	項目	内容の例	項目のねらい
1	医療・看護の 動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の医療・看護の現況について</li> <li>○最近の主な医療・看護関連の制度改革や施策について</li> <li>○看護職に期待されている役割や活動について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国における最近の医療・看護の現状や課題、国等の取り組みについて情報を得る。</li> <li>○看護職員の活動分野は拡大しており多くの人材が必要とされていること、これまで以上に個人の生活と仕事との両立を配慮した勤務形態など条件整備の検討が進められていることへの理解を深める。</li> </ul>
2	医療・看護の現場で不可欠な取り組みについて 1) 医療安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療安全に関する基礎的な知識と医療事故防止活動の実際</li> <li>○院内感染管理</li> <li>○暴力・ハラスメント対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の医療・看護の現場が重視して取り組んでいる事項を取り上げ、それらの概要を理解する。</li> <li>○取り組みを進めるうえで、看護職として果たせる役割や必要な行動について考える機会とする。</li> </ul>

3	<p>2) チーム医療の推進</p> <p>3) 個人情報保護</p>	<p>○医療に対する患者・国民の意識・行動の変容</p> <p>○看護倫理に基づく行動</p> <p>○インフォームド・コンセントの推進</p> <p>○効果的な病院及び在宅でのチーム医療活動の実際（褥創対策、緩和ケア、栄養管理チームなど）</p> <p>○個人情報保護法の概要</p> <p>○医療における個人情報保護の留意点</p> <p>○看護記録類の取り扱いについて</p>	<p>○技術演習・病院見学で実際を把握するよう動機づけていく。</p>
4	<p>看護技術演習</p> <p>1) 感染予防</p> <p>2) 採血・注射</p> <p>3) 蘇生法</p>	<p>○手洗い（手指消毒）</p> <p>○防具用具の使用（手袋、マスク、ガウン）</p> <p>○真空採血管の取り扱い、静脈注射（ワンショット）</p> <p>○心肺蘇生法（AED:自動体外徐細動器の使用を含む）</p>	<p>○どの看護の現場でも必須となる基礎的看護技術について、その技術適用の根拠、具体的方法（機械・器具操作含む）を演習する。</p> <p>○再就業に向けた自信につながるよう比較的短時間で習得可能な項目を取り上げる。</p>

5	病院等見学・ 実習	<p>○見学する病院等の概要及び看護部門の主な活動について</p> <p>○病室、病棟など療養環境整備、IT化、医療機器、看護用具などの実際</p> <p>○患者、看護職員等との交流</p>	<p>○講義で得た医療・看護の情報について臨地で実際に把握するとともに、患者、看護スタッフ等の交流を通して、看護の魅力ややりがいを再確認できるような機会とする。</p> <p>○自己の再就業の可能性、従事したい（できる）施設や活動分野の検討などの参考とする。</p>
---	--------------	---	---